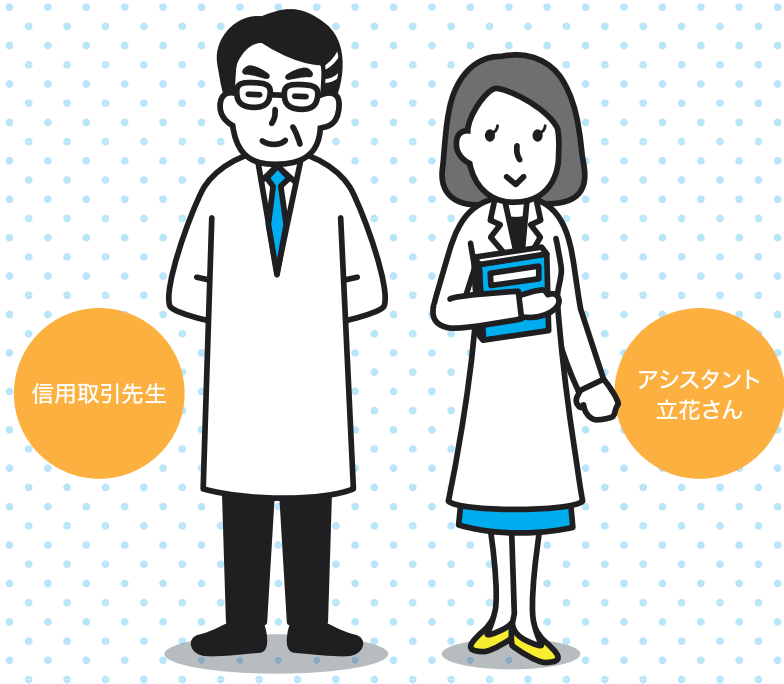


信用取引で解決!

投資家 お悩み相談所



信用取引先生

アシスタント
立花さん

資産運用の王道である株投資。近年の不安定な相場に困っている人も多いのでは？
そんな皆さんのお悩みにお応えできる……かもしれない「信用取引」について、その魅力と上手な活用法をご紹介します。

URL: <https://t-stockhouse.jp/>
<お問合せ> e-mail: info@t-stockhouse.jp
TEL: 0120-66-3303 ※ 携帯/PHS 03-5652-6221
平日8:30~17:00 (土日祝日除く)

立花証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第110号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

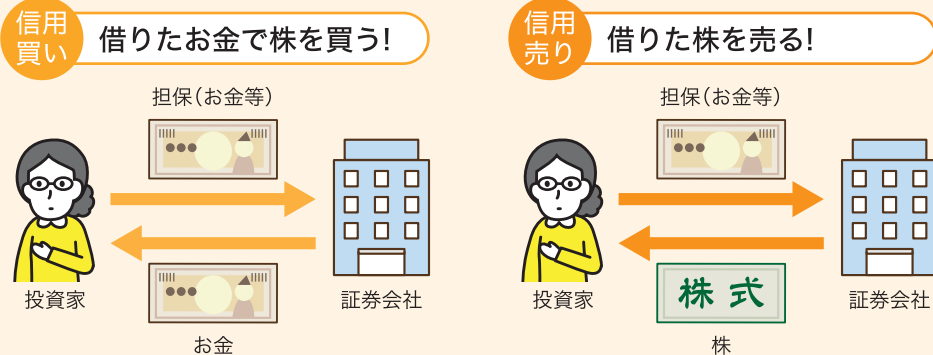
※本冊子に関するご注意 本冊子は情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘や特定銘柄への投資を推奨するものではありません。ご本人の判断と責任においてお取引ください。また、本冊子に記載される説明文や取引例には、簡略化のため信用取引における手数料等の諸費用を考慮していないものがございますのでご注意ください。

信用取引って何？

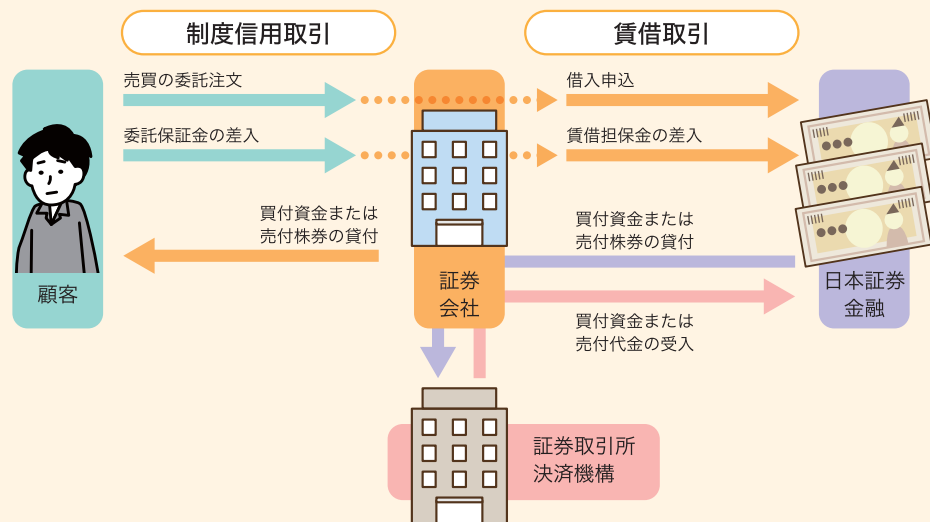
信用取引とは？

投資家が買付けに必要な資金や、売付けに必要な株券を証券会社から借りて、売買を行う取引です。一定の委託保証金もしくは株式・投資信託等を担保として差し入れることで、手元資金以上の取引ができます。現物株と異なり、買って値上がりを待つだけでなく、売って値下がりをする、どちらの取引も可能です。

●信用取引の取引フローイメージ



お金の流れ



制度信用と一般信用の違い

制度信用取引 ... 証券取引所が定めた銘柄を対象とし、返済期限等が証券取引所の規則により決定されている信用取引です。一般信用よりも金利が安く、貸借銘柄は売建が可能です。

一般信用取引 ... 証券会社ごとに取引できる銘柄が違います。また、金利や返済期限等も証券会社が自由に設定できる信用取引です。IPO銘柄は上場初日から取引することができます。立花証券ストックハウスでは返済手数料が無料です。

●制度信用と一般信用の比較表(立花証券ストックハウスの場合)

	制度信用取引(6ヶ月期限)		一般信用取引(無期限)	
取扱銘柄 ⁽¹⁾	東証上場株式の内、制度信用銘柄として指定された銘柄。		東証上場株式の内、当社の定める銘柄。(約3,600銘柄) ⁽²⁾	
取扱可能になるタイミング	取引所が制度信用銘柄に指定後		上場(公開)初日から取引可能	
取引	買建	可能	買建	可能
	売建	可能(貸借銘柄のみ) ※空売り規制にご注意ください。	売建	不可
弁済期限 ⁽³⁾	新規建日から6ヶ月応答日の前営業日		原則として無期限	
金利等 ⁽⁴⁾	買方金利	年2.78%	買方金利	年3.90%
	売方金利	年0.00%	売方金利	-
	貸株料	年1.15%	貸株料	-
品貸料(逆日歩)	品貸料が発生した場合、売方が品貸料を支払い、買方が受け取ります。		品貸料の受払いはありません。	

(1) 信用新規建が停止になるケースは立花証券ストックハウスHP内のQ&A-信用取引をご覧ください。

(2) 立花証券ストックハウスHP内の一般信用取引非取扱銘柄一覧をご覧ください。

上場外国株式(カンントリーファンド含む)、整理銘柄は非取扱。
(3) 上場廃止、株式併合、株式移転、株式交換、株式分割、減資等の措置が実施される場合、一般信用の非取扱になった場合、当社が与信上問題あると判断した場合、当社事務手続上の制約による場合については、当社が定める期日を弁済期限として設定を変更することがあります。

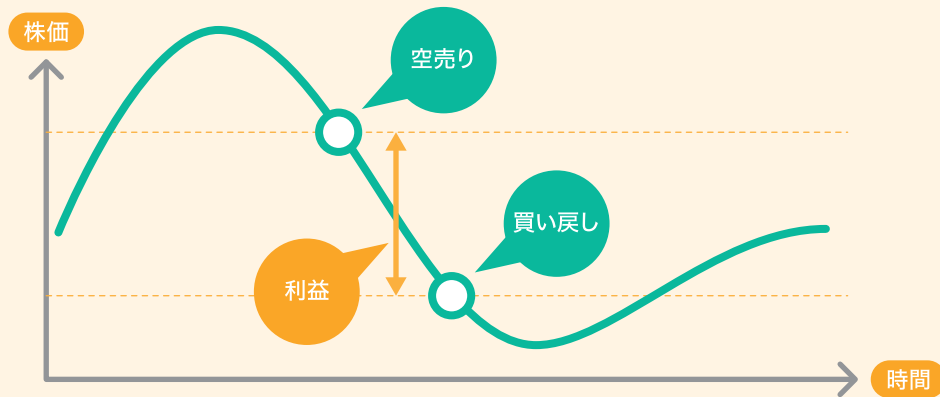
(4) 市中金利、その他の状況に応じて変動します。

信用取引の3つのメリット

メリット① 株価下落時にも利益が狙える

「株を買って、売る」のが基本となる現物取引と異なり、信用取引では買い注文だけでなく、「空売り」の注文を出すことができます。株価が下落しているときにも「株価が高いときに売り、安く買い戻す」ということが可能なため、上昇・下落相場どちらでも利益を得られるチャンスがあります。

●下落相場時の取引イメージ



メリット② 手元資金以上の取引ができる

現物取引と異なり、現金や有価証券等を担保(委託保証金)にすることで、手元資金以上の大きな取引ができます。立花証券ストックハウスでは、30万円の委託保証金を差し入れることで、最大100万円までの株式売買が可能です。その際の委託保証金率は約30%となります。



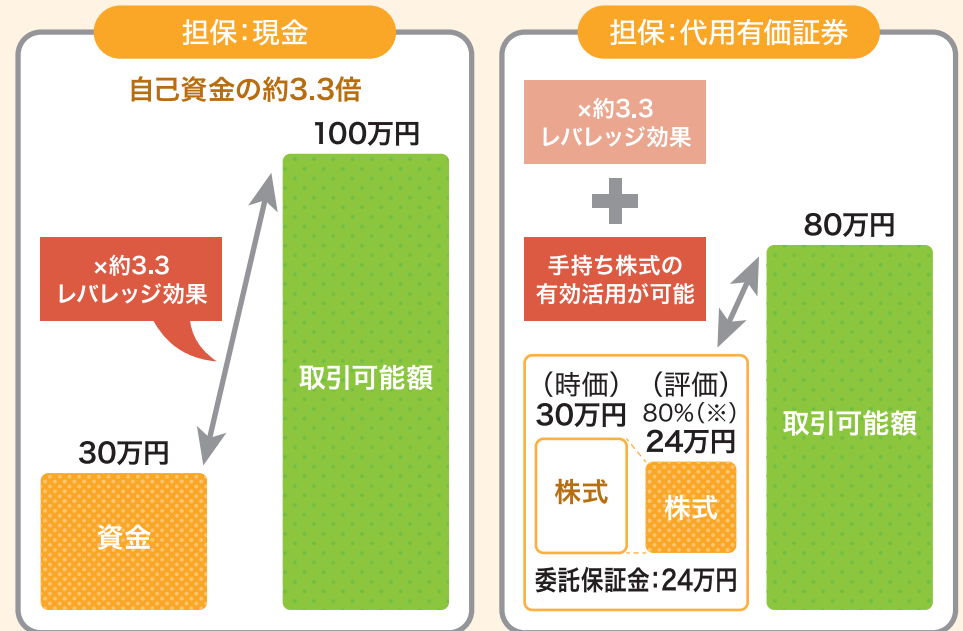
メリット③ 資産を有効活用して効率的な運用ができる

現物取引は、同じ銘柄を同じ日に同じ資金で売買できる回数は限られますが、信用取引は回数を気にすることなく同じ銘柄の回転売買が可能です。

また、長期投資目的で買った現物株式や、価値が下がってしまった塩漬け株、分配金を得るために保有している投資信託等を信用取引の担保として利用できるなど資産運用の効率を良くすることができます。

●代用有価証券のイメージ図

保有する有価証券を保証金として利用可能(代用有価証券)



※代用有価証券の評価掛目は、証券会社のルールによります。

信用取引で解決！ 投資家のお悩みあるある

ここからは、投資家によくあるお悩みを見ていきましょう。
信用取引を上手に使うことで、その悩みを解決できるかもしれせん。



お悩み② 今持っている株を手放したくない！

今持っている株は値下がりしそうな気がするけれど、親から譲り受けたものなので、簡単には手放したくないのですが…



信用取引で保有株と同数の株を空売りする「つなぎ売り」で、損失を限定することができますよ

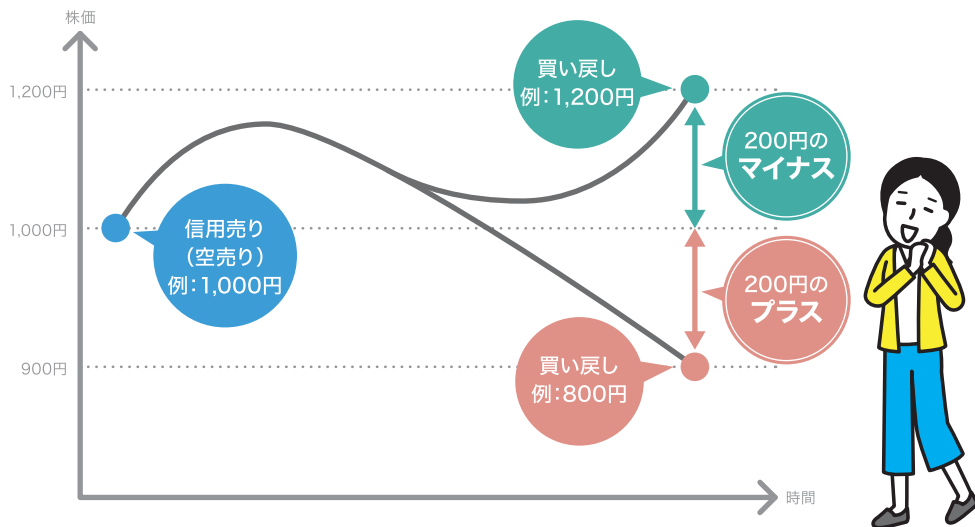
お悩み① 相場が悪い

株取引をしたいのですが、最近、全体的に相場が落ち込んでいてチャンスがありません

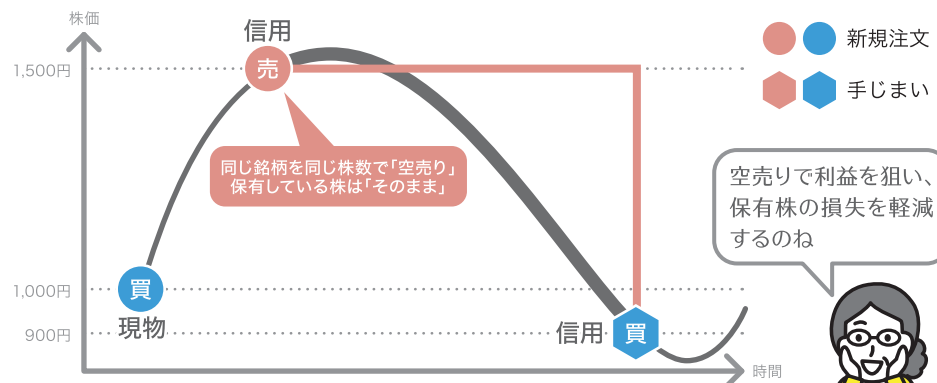


そういうときは、信用取引の「空売り」を活用しましょう。安く買って高く売る通常の取引と逆の取引ができるので、下落相場こそ利益獲得のチャンスです

空売りとは、先に売って買い戻すという手法です。そのため、高値で売って安値で買い戻すことで利益を得ることができます。逆に上昇相場では損失が出ますので、注意が必要です。



「つなぎ売り」は保有している銘柄の下落が予想される場合に、保有している現物株を売却せずに新たに信用取引で空売りし、値下がりリスクを回避する手法です。空売り後、予想通り株価が下がった場合は、売建玉を返済することによって差額分の利益を得ることができ、現物株の値下がりによる損失を限定できます。



また、予想に反して空売り後に株価が上がってしまった場合には、現物株を売建玉の返済に充てる（現渡し）することで、空売りの損失を限定できます。ただしこの場合、手元の現物株はなくなってしまいます。



Point つなぎ売りで株主優待のリスクヘッジに

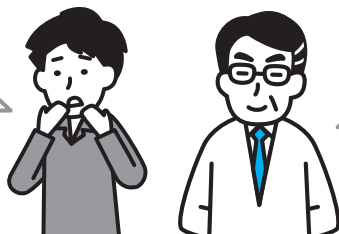


「つなぎ売り」は、値下がり気になると株主優待銘柄でも活用できます。権利確定日に「現物取引の買い」と「信用取引の売建」を同じ値段、同じ株数で取引し、権利落ち日に「現渡し」で決済することで、株価下落の影響を抑えながら優待を手に入れることができます。

※つなぎ売りは品質料（逆日歩）等のコストが優待の価値を超える場合がありますので注意しましょう。（信用取引のコストについてはP.12へ）

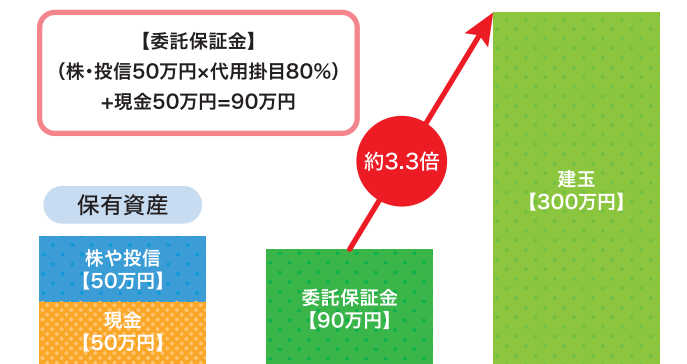
お悩み③ 買いたい銘柄があるのに……

今話題の銘柄を取引したいのですが、すぐに投資に回せる資金が足りません

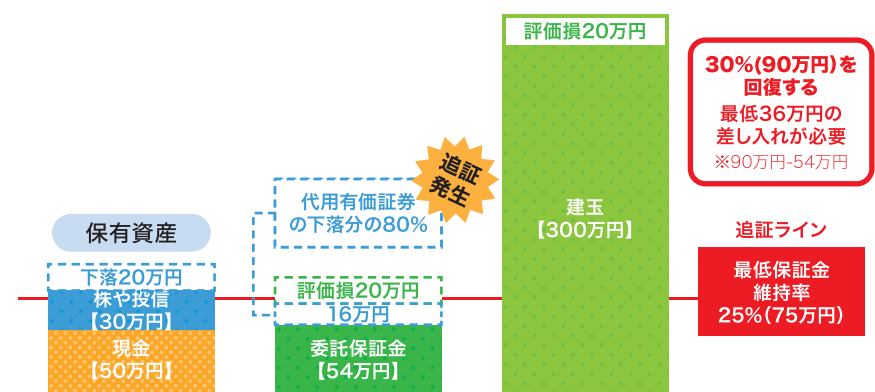


信用取引なら手持ち資金の約3.3倍の取引ができますよ！例えば、100万円の取引であれば、最低限30万円以上の資金があれば大丈夫です

信用取引は、取引額の30%の資金を保証金（最低30万円※）として差し入れることで効率良く取引ができます。（※実際に信用取引をするには、併せて諸経費が必要です。）また、立花証券ストックハウスでは保有する株式や投資信託（代用有価証券）を担保として、その時価の80%（代用掛目）を委託保証金として信用取引に利用できます。



P.8図の取引において
信用建玉の評価損が【20万円】発生かつ保有中の株や投信が【20万円】下落した場合



Point 追証が発生するとどうなるの？
追証が発生すると、対応期限までに追加入金や信用建玉決済等により追証を解消させる必要があります。追証が解消されない場合は、強制決済が行われます。信用取引は余力管理が重要です。

Point 銘柄選択の幅が広がる！

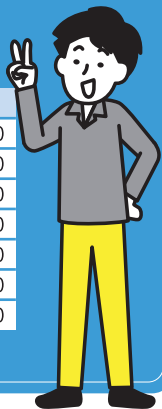
有名な企業の銘柄や人気の銘柄などは、最低購入額が高い銘柄が多くあります。現物取引では手が届かないときも信用取引を活用することで銘柄選択の幅が広がります。



● 投資家に人気の銘柄例 (投資金額50万円以上)

コード	銘柄名	株価(円)※	最低投資金額(円)
4661	オリエンタルランド	16,645	1,664,500
6758	ソニー	6,202	620,200
6861	キーエンス	65,200	6,520,000
6954	ファナック	19,590	1,959,000
7203	トヨタ自動車	7,087	708,700
7974	任天堂	40,770	4,077,000
9983	ファーストリテイリング	61,160	6,116,000

※株価は2019年10月8日終値。



お悩み④ 相場が不安定で読みづらい

気になっている銘柄があるのですが、相場が不安定なので取引しづらいです

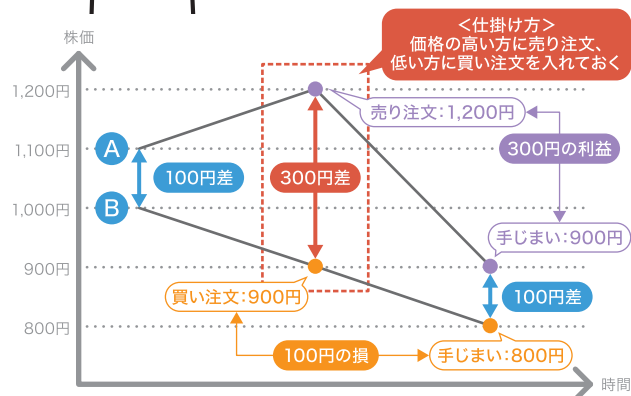


「ペイトレード(サヤ取り)」を活用してみてもどうでしょうか？

ペイトレードは、よく似た値動きの銘柄をペアにして、一方を買い、もう一方を空売りすることで、2つの銘柄の価格差で利益を狙います。常にリスクヘッジした状態になるため、値動きのリスクを軽減できます



一般的に相関性の高いペアは、価格差が一時的に大きくなっても、元の水準に戻る確率が高い性質があります。そこで、**価格差が大きくなったときに注文を入れ、元の水準に戻ったときに手じまいをする**ことで、利益を狙うのです。



合計額 300円の利益 - 100円の損 = 200円の利益

株価が上がった場合も同様です。

A社 1,200円で売り → 1,300円で買い戻し = 100円の損失
B社 900円で買い → 1,200円で売り = 300円の利益

300円の利益 - 100円の損 = 200円の利益

このように、株価が上がっても、下がっても利益を狙うことができます。



Point ペイトレードをするときはここに気をつけよう

対象ペアの価格差が必ず縮小するわけではないので、ロスカット基準を予め設定しておきましょう。また、取引前に「貸借銘柄(信用売り可能な銘柄)」かどうかを確認しておくことも重要です。



お悩み⑤ 決済した銘柄にもう一度取引のチャンスが!

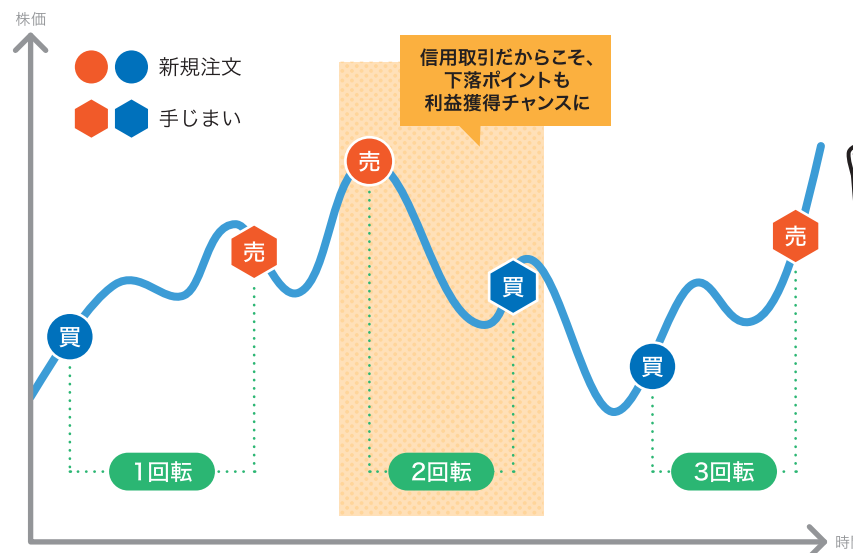
普段は特定の銘柄を現物株で取引しているのですが、1日に1回転しか取引できないので、何回かチャンスがあるときに悔しい思いをします



信用取引なら、1日に何度も取引ができるので、新規注文や手じまいがもっと気軽にできると思いますよ



株取引では、好きな銘柄や取引しやすい銘柄があると思います。しかし、現物取引では、同一資金を利用した同一の銘柄の取引は1日に1回しかできません。信用取引なら、**同じ銘柄を何度も回転売買**できるため、投資チャンスを逃すことを軽減できます。



Point 何度も取引をするなら、手数料にも注目!

何度も取引をする際には、取引にかかる手数料に注目しましょう。立花証券ストックハウスの取引手数料は、売買の負担が少なくなるよう現物取引より信用取引の手数料をお得に設定しています。(詳しくはP.13へ)



コストと手数料

取引時にかかる各種コスト

信用取引には、取引手数料とは異なる以下のコストが発生します。

●金利とは

証券会社からお金を借りて株を購入した場合の、借りたお金に対する利子を「金利」と呼びます。買建の場合は、建株金額に対する買方金利が発生し、売建の場合は、建株金額に対する売方金利を受け取ることができます。

◆立花証券ストックハウスの金利

	買方金利	売方金利
制度信用取引	年利 2.78%	なし
一般信用取引	年利 3.90%	-

●貸株料とは

売建の際に、証券会社から株を借りるための借り賃（レンタル料）です。売建の約定金額に対して、証券会社所定の年率を乗じた額を支払います。品貸料（逆日歩）とは異なり、買方が受け取るものではありません。

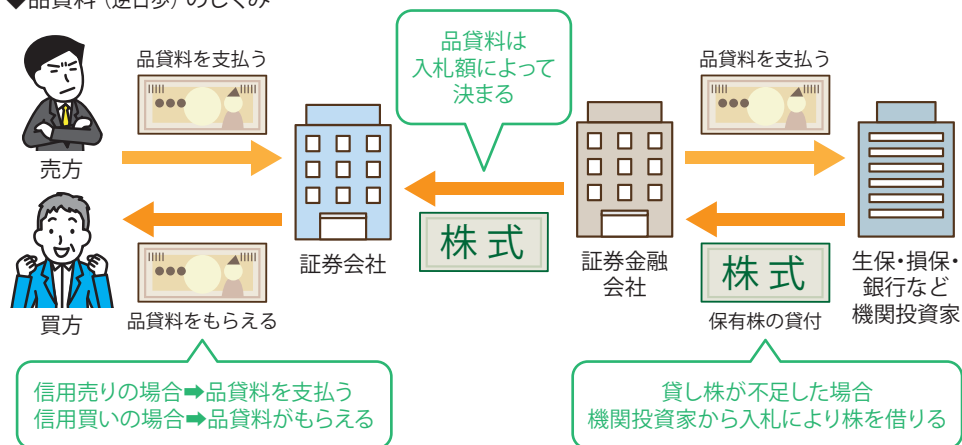
◆立花証券ストックハウスの貸株料

制度信用取引	貸株料：年1.15%
一般信用取引	貸株料：なし（売建不可）

●品貸料（逆日歩）とは

制度信用取引において証券金融会社で株不足が生じた場合などに、証券金融会社は入札形式でその不足株数を機関投資家から調達します。その入札により決定された料率を品貸料（逆日歩）といい、その品貸料は最終的にその銘柄の売方が支払い、買方がこれを受け取ることができます。

◆品貸料（逆日歩）のしくみ



●その他諸経費

事務管理費：信用新規建約定日から1ヶ月を経過するごとに事務管理費が必要になります。

名義書換料：買建玉がその銘柄の権利確定日を越えた場合に発生します。

配当調整金：建玉がその銘柄の権利確定日を越えた場合には、売建であれば配当金相当額として支払います。買建であれば配当金相当額として受け取ります。

信用取引手数料について

立花証券ストックハウスでは、制度信用、一般信用ともに取引手数料を無料でご提供しています。また現引、現渡による手数料も無料なので、コストを抑えた取引が可能です。

※カスタマーサービスへの電話取引、当社が任意で行う取引（決済期日到来にともなう反対売買や、追加証拠金や不足金が期限までに充当されなかった場合など）は、約定代金×0.44%（最低2,640円・上限110,000円（税込））の取引手数料がかかります。



立花証券ストックハウスなら現物取引もおトク！

立花証券ストックハウスでは新規口座開設で現物株式の取引も手数料が最大半年無料になる、「現物手数料0円プラン」をご用意しています。相場や戦略に応じて、信用取引・現物取引と使い分けるとよりおトクな取引が実現可能になります。

プラン概要

- ① プラン提供期間中に新規で「証券口座」の開設が完了した方を対象に、口座開設完了日の翌営業日から約3ヶ月間（60営業日・約定日ベース）の現物株式取引手数料が無料となります。
- ② さらに、上記無料期間中に信用新規建、もしくは投資信託買付をされた方には約3ヶ月間（60営業日・約定日ベース）追加し、合計約6ヶ月間（120営業日・約定日ベース）の現物株式取引手数料が無料となります。



立花証券ストックハウスの取引で 知っておきたいこと

ゆとりを持った資金管理を

持っている株の評価が下がると、最低保証金維持率や最低委託保証金額を下回ってしまふことがあります。それらを回復するためには、追加で資金を差入れることが必要です(追加証拠金=追証)。追証にならないよう、ゆとりを持った資金管理、取引をしましょう。

立花証券ストックハウスでは各種トレードツールに「保証金率時価試算」画面を用意しています。時価の余力状況が一目で確認できるため、資金管理の強い味方になるでしょう

立花証券ネットレード ストックハウス		
保証金率時価試算		
	当日	6営業日
差入保証金	10,727,279	10,728,276
評価損益(経費込み)	-2,025	-2,025
受入保証金	10,725,254	10,726,251
維持代金合計	1,385,000	1,385,000
保証金率(%)	803.38	803.46
追証必要保証金	385,775	385,775
追証余力	10,391,504	10,392,501

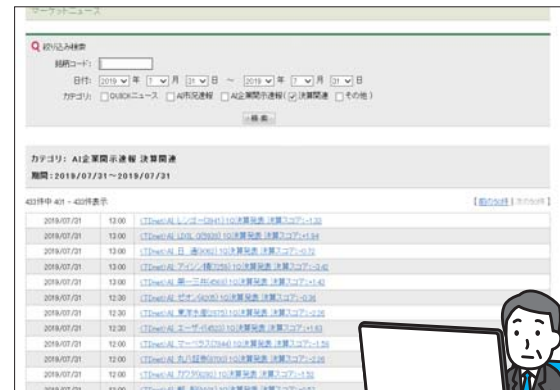
立花証券 ネットレード										
信用取引										
信用損益(当日分)										
当日信用約束手集計										
		新規	返済							
買建代金合計		528,900円	1,503,000円							
売建代金合計		0円	0円							
総代金合計		528,900円	1,503,000円							
信用損益一覧(当日分)										
銘柄コードを指定された場合は、銘柄単位でのお問い合わせができます。										
Q 銘柄コードで絞り込み <input type="text"/> <input type="button" value="実行"/>										
検索結果 合計信用損益 116,800円 2019/09/06 11:22 現在										
※損益は、仮計算で表示しております。又、ご返済時の内容は「入金文字」で表示しております。										
29件中1-3件表示										
	年月日	売	買	損益		年月日	売	買	損益	
銘柄	2019/09/06*	100株	3,000円	300,000円	1861 東証 新谷 組	2019/09/27	100株	2,870円	287,000円	12,357円
銘柄	2019/09/06*	100株	8,300円	830,000円	6762 東証 TDK	2019/07/09	100株	8,440円	844,000円	81,400円
銘柄	2019/09/06*	100株	2,730円	273,000円	7267 東証 本田技研工業	2019/09/13	100株	2,490円	249,000円	23,140円



また、「信用損益(当日分)」画面では、決済後の損益累計がすぐに確認できます。現時点の取引損益累計を確認できるので、効率良く資金管理ができます

すばやく質の良い情報が手に入る

立花証券ストックハウスでは、業界初の『AI(人工知能)が記事化したニュース速報を配信するサービス』を提供しています。



中でも、「AI企業開示速報」に用意されている『決算スコア』では、AIの分析結果が+(プラス)、-(マイナス)で表示され、瞬時に売り買いの判断材料としてご利用いただけます。



そのほかにも、充実した立花月報や、無料で読める会社四季報、毎月実施しているセミナーなど、豊富で質の良い情報提供を行っています。役立つ情報の活用により、取引の幅も広がります

場所を選ばずにスピーディーな取引ができる

立花証券ストックハウスでは、WEBブラウザツールに負けないスマートフォンアプリ版取引ツールを用意しています。リアルタイムでの株価更新はもちろん、スマートフォンならではのシンプルな操作ですばやくかつ快適にお取引いただくことが可能です。

スマートフォンアプリで
できること

銘柄情報

ランキング

AIニュース

会社四季報
最新銘柄レポート

多機能チャート

2WAY注文

手軽なのに本格的な
スマートフォンアプリで
取引チャンスを逃さない!
ダウンロードはこちらから



投資に際してのご留意点等

投資に際しては、契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、商品・取引の仕組みやリスクなどを十分にご理解の上、ご本人の判断と責任においてお取引ください。

【株式等について】

- 上場有価証券等の売買等にあたっては、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動や、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等の裏付けとなっている株式、債券、投資信託、不動産、再生可能エネルギー発電設備、公共施設等運営権、商品、カバードワラント等（以下「裏付け資産」(※) といいます。）の価格や評価額の変動に伴い、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- 上場有価証券等の発行者または保証会社等の業務や財産の状況に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者または保証会社等の業務や財産の状況に変化が生じた場合、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- 上場有価証券等のうち、他の種類株式、社債、新株予約権その他の財産に転換される（できる）旨の条件または権利が付されている場合において、当該財産の価格や評価額の変動や、当該財産の発行者の業務や財産の状況の変化に伴い、上場有価証券等の価格が変動することや、転換後の当該財産の価格や評価額が当初購入金額を下回ることによって損失が生じるおそれがあります。
- 新株予約権、取得請求権等が付された上場有価証券等については、これらの権利を行使できる期間に制限がありますのでご注意ください。また、新株予約権証券は、あらかじめ定められた期限内に新株予約権を行使しないことにより、投資金額全額を失う場合があります。

(※) 裏付け資産が、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等である場合には、その最終的な裏付け資産を含みます。

レバレッジ型、インバース型ETF及びETNのお取引にあたっての留意点

レバレッジ型・インバース型ETF等への投資に係る注意事項 (https://t-stockhouse.jp/common/caution_etf_leva_inverse/)

上場有価証券等のうち、レバレッジ型、インバース型のETF及びETN(※)のお取引にあたっては、以下の点にご留意ください。

- レバレッジ型、インバース型のETF及びETNの価額の上昇率・下落率は、2営業日以上の場合、同期間の原指数の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じたものとは通常一致せず、それが長期にわたり継続することにより、期待した投資成果が得られないおそれがあります。
- 上記の理由から、レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、中長期間的な投資の目的に適合しない場合があります。
- レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、投資対象物や投資手法により銘柄固有のリスクが存在する場合があります。詳しくは別途銘柄ごとに作成された資料等でご確認ください。

(※) 「上場有価証券等」には、特定の指標（以下、「原指数」といいます。）の日々の上昇率・下落率に連動し1日に一度価額が算出される上場投資信託（以下「ETF」といいます。）及び指数連動証券（以下、「ETN」といいます。）が含まれ、ETF及びETNの中には、原指数の日々の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じて算出された数値を対象指数とするものがあります。このうち、倍率が+（プラス）1を超えるものを「レバレッジ型」といい、-（マイナス）のもの（マイナス1倍以内のものを含みます）を「インバース型」といいます。

【信用取引について】

- 株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い、株価や基準価額が変動することにより、投資元本を割り込み、損失（元本欠損）が生じる恐れがあります。また、これらにより生じる恐れがある損失の額は、差し入れた保証金（当初元本）を上回る損失が生じる恐れがあります。
- 株式は株価変動等により損失が生じる恐れがあります。株式の発行者や組入れ有価証券の発行者の業務や財産の状況、市況の変化に伴い、株価や基準価額が変動することにより、投資元本を割り込み、損失（元本欠損）が生じる恐れがあります。ETNは裏付けとなる資産を保有せず、発行体となる金融機関の信用力を背景として発行される証券であることから、発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、ETNの価格が下落する又は無価値となる可能性があります。これらにより生じる恐れがある損失の額は、預託した委託保証金の額を上回る恐れがあります。
- 約諾書の印紙代が必要な場合は、当社が負担いたします。
- 取引に際し、売買代金の30%かつ30万円以上の委託保証金が必要です。株式・投信で代用する場合は、原則、基準値段の80%で評価されます。
- 信用取引は、取引しようとする額の30%の委託保証金を預託することにより取引が行えることから、取引額は預託すべき委託保証金の額を上回ります。その比率は、約3.33倍です。信用取引には、金利等の諸経費が必要です。
- 建株の評価損や諸経費、代用有価証券の値下がり等により、計算上の委託保証金の額が25%未満または30万円未満となった場合、不足額を当社所定の日時までに差し入れていただく必要があります。差し入れが確認できなかった場合、当社の任意で建株の全部を決済させていただきます。
- 建株の株式分割時、分割比率が整数倍の場合は建株数が増加、建て単価が減額されます。分割比率が整数倍ではない場合、権利入札により権利処理価格が決定され、建て単価から減額されますが、入札時の相場状況・需給関係によっては、理論上の価格と乖離する場合があります。
- 建株に係る株主優待は、受け取ることはできません。
- お預かりする委託保証金は分別保管の対象ですが、信用取引により買い付けた株券、及び売り付けた代金は、分別保管の対象ではないため、当社の経営が破綻した場合等に、信用取引の決済が行えない可能性があります。この場合、原則、取引所が定めた株価等をもって金銭により清算されますが、支払い請求権には一切優先的地位が与えられないため、計算上利益が生じている場合であっても、これを受け取ることができない可能性があります。なお、当該債権は、投資者保護基金による補償対象にもなりません。
- 個別コース手数料上限: 現物取引1,045円/ 信用取引 無料
- 定額コース手数料上限: 現物取引88,000円/ 信用取引 無料
- 電話注文時の手数料: 約定代金×0.44% (最低2,640円、上限110,000円)
- 単元未満株(端株)手数料: 約定代金×0.55% (最低1円、上限なし) (手数料の金額は全て税込表示です。)